

「カンボジアの力に」

竹野さん 大谷さん熱意語る 室蘭

カンボジアで教育支援を行っている室蘭のNPO法人はちどりプロジェクト(宮手恵代表)の講演회가21日、室蘭市幸町の市文化センターで開かれた。市内の中学、高校生がスピーチし、同国の支援に懸ける熱意を語った。



約40人が聴講。室蘭市星蘭中3年の竹野留里さんは、小学4年のころに読書感想文の課題図書で途上国の窮状を知り、衝撃を受けた。母親と訪れた同NPOの講演で、カンボジアの子どもたちが人身売買や強制労働の被害に遭っていると

聞き、「今こそ私も何かしたい」と決意。現地の公用語に翻訳された絵本を寄贈したが力不足を痛感し、将来は「自分の力で現地に行つてボランティアに参加したい」と意気込んだ。海星学院高1年の大谷優生さんは昨夏、カンボジア

「カンボジアの力になりたい」と語った大谷さん(右)と竹野さん

に1週間滞在した経験を発表。にぎやかな首都プノンペンでも物乞いの子どもたちがいるのを見て「貧富の差を実感した」。経済難から母親と離ればなれになった女の子との交流を通じて「誰かのために働ける人になりたい」と決意。まだ学び始めたばかりで、「く一部しか見られていない。カンボジアの人にとっての幸せを学びたい」と語った。宮手代表は「カンボジアには教育を受けたくてたまらないという子どもがたくさんいる」と強調。学校の建設や勤労の場が求められている現状を説明し、市民らは真剣に聞き入っていた。(吉本大樹)